

■第2回原泉地区振興計画策定ワークショップ（R4/1/17）まとめ

【テーマ】 ①原泉地区の目指す姿
 原泉地区の将来像 ②今後、ならここの里が地域で果たすべき役割
 ③原泉地区をより元気にするためのアイデア

原泉地区の目指す姿

人口減少・
 少子高齢化
 対策

地域活性化

自然とともに生きる地区

- 美しい自然環境の保全
- 自然と地域の共存
- 自然を活かした地域づくり
- 登山の名所
- 自然学習の拠点

自然

農林業を支える地区

- 食の生産地（茶、果実等）
- 耕作放棄地（荒地）の解消
- 土地の有効活用
- 豊かな森林資源の活用
- 手入れされた森林

産業

暮らしやすく、安全・安心な地区

- 誰もが笑顔で暮らせる地域
- お年寄りが元気な地域
- 静かに暮らせる地域
- キャンプ場来訪者との交流
- 多世代交流が盛ん
- 災害に強い地域（土砂災害等）
- 防災拠点の充実
- 買い物が便利（コンビニ等）
- 路線バスの増便
- 道路環境の整備

人

インフラ

若者が住みたくなる地区

- 若い人が住みたくなる地域
- 子どもの増加と学校の復活
- 女性が暮らしたい地域
- 多様な人や文化を育む地域
- 移住者と住民の協働

移住

アートあふれる地区

- アートを通じた交流
- 海外からのアーティストの移住
- アートによる地域活性化
- 歴史のPRと活用

ART

原泉をより元気にするためのアイデア



自然の活用

森林組合等との連携

- 森林組合を巻き込んだ地域づくり
- 林道を活用したマウンテンバイクツアーの周知
- 林業体験の実施
- 林間学校、星空観察会

自然・歴史の活用

- 八高山、大尾山の活用
- 棚田の再生（原野谷川源流）
- 奥の院の修理（クラファン）
- 修行体験ツアー
- ならここ明ヶ島トレイル
- 駅伝、マラソン大会

魅力の向上

地域全体の新しい取組

- 原泉地区全体が参加できるイベントの実施
- 特色のあるもの（イチヨウのイルミのような）を製作
- 桜、藤、紅葉の里づくり
- 地産ショップ、マルシェ

アートのまちづくり

- アートのある街道
- アーティスト・イン・レジデンスの促進
- 茶工場跡の活用
- 地域全体としての取組
- 年間を通じた活動、展示

移住定住

移住定住の促進

- 移住定住支援（特区指定）
- 2拠点スターターパック（家・家電、田畑、ネット等）
- リモートワークの受け入れ
- 雇用の創出
- 子育て環境の整備

空き家の活用

- ワーケーションの場の提供
- 古民家での生活体験
- お試し移住のパッケージ提供
- 古民家カフェ、飲める場所
- アートセンターの開設

地域との連携強化

- 地域のビジターセンター化
- 温泉の割引等による地元利用の促進
- 地域資源（しばちゃん、さくら咲く学校等）との連携
- 地域との協働で環境を維持

積極的な情報発信

- 地元向けの広報の強化
- キャンプ利用のマナー啓発
- 魅力の発信（HP、SNS）
- 「森の都街道」の愛称決定
- 案内看板の設置

人材の育成、獲得

- 人材の育成（パイプ役）
- 外部からの人材の投入
- 原泉応援隊の結成
- 交流人口、関係人口の拡大 ⇒ 原泉のファンづくり
- 良好なコミュニティの維持

連携強化 情報発信

人材育成 体制づくり

地域のための
 の施設

持続可能な
 施設運営

地区
 外

観光資源

- 観光の核となる施設
- 回帰館の活用（アート展示）
- キャンプ愛好者と地域を結び付ける場所
- 市の観光の目玉に！

交流 観光

地区
 内

地域のための施設

- 行事やイベント等を通じた地域との交流
- 地元利用の促進
- 中山間地域の活性化拠点
- 原泉の知名度向上、PR

拠点

防災拠点

- 有事の際の防災拠点
- 安全・安心な場所

防災

ならここの里 の果たす役割

民間譲渡について

- 今のままでよい
- 地元の企業がよい
- 地域活性化に寄与する企業にしてほしい
- 地域のことを理解している企業がよい

地域
 密着

持続可能で柔軟な運営

- 第3セクターの成功事例
- 条例に縛られないスピード感ある経営
- 地元ニーズとの相乗効果
- 地元の意見、提案の反映
- 市との共催事業

持続
 可能